

北海道支所

北海道支所研究調整官 佐々木 克彦

北海道支所は、「北方系森林の自然力を高度に活用した管理技術の確立」を研究目標に据え、五つの研究グループ（森林育成、植物土壌系、寒地環境保全、森林生物、北方林管理）と5名の研究チーム長によって研究を進めています。

森林育成グループでは、樹木の生態・遺伝の仕組みや森林の多様性を調べることによって、増殖・保育などの造林技術の向上を図り、森林を持続的に育成・保全・利用していくための研究に取り組んでいます。植物土壌系研究グループでは、森林土壌の特性、分布様式、生産力や各種環境条件に対する樹木の反応を明らかにして、温暖化や酸性雨などの環境変動が植物-土壌系に与える影響を評価・予測する研究を行っています。寒地環境保全研究グループでは、寒冷地における水、大気、土などの環境変動と森林生態の相互作用を調べ、地球の温暖化や異常気象による自然災害と森林との関わりを明らかにする研究を行っています。森林生物研究グループでは、病虫害防除技術の開発ならびに森林性野生動物の個体群管理技術の開発のために、それぞれ病原菌・森林昆虫の生態や発生条件、野生鳥獣の生態に関する研究を行っています。北方林管理研究グループでは、北方林というランドスケープの維持・改善に配慮した森林経営のあり方を明らかにするとともに、土地利用状況の把握や木材資源の利用を含む多様な社会ニーズに対応した多目的森林管理計画策定手法の開発に取り組んでいます。

研究チームは、大きく地域の重要課題を担当するチームと公募型プロジェクトに対応するチームとに分けられ、いずれも各チーム長の主導のもとで分野を横断した研究の総合化並びに重点化を目指しています。前者には天然林択伐チームと針葉樹長伐期チームの2チームがあり、それぞれ「択伐による生態系への影響調査および天然林択伐施業の施業・計画法の開発」、「長伐期施業による森林資源量や環境の変化などの長期的な予測を基にした適正な森林管理手法の構築」に取り組み、北海道林業が現に直面している諸問題の解決に当たっています。他方、森林国際基準チームは「森林の生物多様性や健全性について北海道に適した評価手法の開発」、CO₂収支チームは「北方系森林生態系でのCO₂固定能とその変動機構の解明」、アンブレラ種チームは「稀少種であるオオタカを指標とした生物多様性評価手法の開発」の研究にそれぞれ取り組んでいます。

このように北海道支所では地域ニーズに即した研究を重点的に進める一方で、環境研究やシベリア等の海外関連の研究に対しても多くの力を注ぎ、本所や他支所と有機的な連携をとりながら幅広い研究を行っています。



写真. 平成13年度広報・普及活動の一環として行った一般公開での研究紹介風景

[\[巻頭言\]](#) [\[シリーズ1\]](#) [\[シリーズ2\]](#) [\[シリーズ3\]](#) [\[シリーズ4\]](#) [\[シリーズ5\]](#) [\[シリーズ6\]](#)

[\[所報トップページへ\]](#)